

すくわくプログラム

—絵の具遊び—

子ども園せいび 桂 美沙

テーマ

絵の具遊び

設定理由

子どもたちと絵の具に触れてその感触や描く楽しさを一緒に味わいながら探求を深めていきたいと考えたため。また、視覚的に色を知る機会になれば良いと考えたため。

活動スケジュール

6～3月：2ヶ月に1回程度 計6回

準備した素材や道具、環境の設定

絵の具、筆、たんぽ、お皿、模造紙、画用紙、ロール紙、スモック、水着、ビニールシート等

活動1 初めての絵の具

期待する経験

- ・絵の具とはどんな物かを知る。
- ・手で触れてみたり、筆で描いてみたりする。

準備した物

机、椅子、原色の絵の具、お皿、筆、白い画用紙、ビニール

- ・初めてなので3原色の絵の具を使用する。
- ・中身が見てわかりやすいように透明のお皿を使用する。

子どもたちの様子

- ・保育者がどの色の絵の具が良いか声を掛けると、手を伸ばしたり視線を送ったりする姿が見られた。
- ・最初は手を出さない子どもが多かったが、保育者が一緒に絵の具のついた筆を持って描いてみると、自分で筆を持って描くなどする姿が見られた。
- ・筆を持ちたがる子どももいれば、絵の具のお皿に直接手を入れる子どももいた。
- ・絵の具のお皿をひっくり返して手でバシャバシャ叩き、絵の具の感触を味わっている様子も見られた。
- ・筆を持って自然と筆を動かして描く子どももいた。
- ・絵の具が手につくと不思議そうに見ていた。

振り返り

☆=自身の振り返り ★=クラスの振り返り

☆紙が小さすぎて思いっきり筆を動かすことが出来なかったため、次回はもっと大きな紙を使用して思いっきり筆を動かしたり、手で感触を味わうことができるようにしたい。

☆洋服に着くことなどを気にせずに取り組めるよう環境を整えたい。

☆初めてのことであったため、1対1でじっくりと取り組むことができて良かった。

☆タンポなどを使った活動も行ってみたい。

★初めての経験だったにも関わらず、筆を上手に持って動かすことが出来ていたことに驚いた。

★もっと大きな紙を使用した方が良かった。

★汚れることを気にせずに取り組むことが出来ると良い。

★0歳児から絵の具に触れる経験が出来て良かった。

実践

- ・子どもたちは前に置いてある3色の絵の具から自分で色を選ぶ。まだ言葉は出ないため、視線や指さしで保育者が判断し、その色を使ってみる。
- ・保育者が描いて見せるなどし、保育者の真似をして自分も描いたり、絵の具に触れたりしてみる。



活動2 ダイナミックに描いてみよう

期待する経験

- ・汚れることを気にせず思いっきり絵の具に触れ、大きな紙に色をつけてみる。

準備した物

机、水をイメージした色の絵の具、お皿、筆、たんぽ、白いロール紙、ビニール、スモック

- ・ダイナミックに書くことが出来るよう、紙を大きいものにする。
- ・汚れることを気にせず取り組めるようにスモックを着用する。
- ・夏らしく水をイメージする色の絵の具を使用する。

子どもたちの様子

- ・最初は躊躇していたが、保育者がやってみせると表情が変わり、前回の活動を思い出したように筆を握る姿が見られた。
- ・たんぽでスタンプして見せると、子どもたちも真似をして楽しんでいる様子であった。
- ・次第に絵の具が入ったお皿をひっくり返し、手で絵の具を広げる姿が見られた。
- ・手で絵の具に触れることでその感触を味わっている様子が見られた。
- ・筆やたんぽにお皿から絵の具をつけることを自然とやっていた。

振り返り

☆=自身の振り返り ★=クラスの振り返り

☆スモックを着用したことで、洋服を汚す心配がなくなり、保育者も安心して子どもたちに自由に絵の具に触れてもらうことができ、とても良かった。

☆紙を大きくしたことで前回よりも思いっきり絵の具で描いたり、たんぽでスタンプすることを楽しむ姿が見られ、良かった。

☆初めは筆やたんぽを使っていたが、次第に手で絵の具に触れ、お皿をひっくり返してその感触を楽しんでいる姿も見られた。子どもたちなりに探求している姿が見られ、とても良かった。

☆室内だと限られたスペースで行うことになるため、テラスなど戸外でもやってみよう。

★スモックを着用したことで思いっきり絵の具に触れることができて良かった。

★保育室の天井を低く見せ子どもたちが落ち着いて過ごすことが出来るようにするための布の一部として、出来上がったロール紙を使用したことで、子どもたちが嬉しそうに上を見上げる姿があり、とても良かった。

★戸外で行ってみるのも良い。

実践

- ・机を並べてロール紙を広げ、その上に絵の具と筆、たんぽを置いておく。
- ・子どもたちはスモックを着てそれぞれ思うように筆やたんぽを手に取り、保育者と一緒に好きな絵の具をつけ、描いたり、ポンポンスタンプをしたりする。



活動3 もっとダイナミックに？描いてみよう

期待する経験

- ・ 戸外で行うことで広々とした環境で全身を使って絵の具遊びを楽しむ。

準備した物

身近にある色の絵の具、お皿、筆、たんぽ、白い大きな模造紙、ビニールシート、スモック、水着

- ・ ダイナミックに書くことが出来るよう、テラスで大きな模造紙に描いてみる。
- ・ 汚れることを気にせず取り組めるようにスモックや水着を着用する。

子どもたちの様子

- ・ 経験を重ねていくうちに絵の具とはどんなものかが少しずつ解ってきている様子で、躊躇なく絵の具に触れ、それぞれ筆を使うことを好んだり、手で触れることを好んだり、個々で違った好きな楽しみ方が見られるようになった。
- ・ 筆を両手に持って描く姿も見られた。
- ・ 足や腕にも絵の具をつけてその感触を味わっていた。
- ・ 広いスペースで行ったことで、集中して取り組む時間は前回より短かった。

実践

- ・ テラスの広い環境で汚れても良い服装で大きな模造紙に描いてみる。
- ・ 子どもたちはそれぞれ思うように筆やたんぽを手に取り、保育者と一緒に好きな絵の具をつけ、描いたり、ポンポンスタンプをしたりする。



振り返り

☆=自身の振り返り ★=クラスの振り返り

- ☆ 2回にわたって行い、1回目は洋服にスモック、2回目は水遊びの前に水着で行った。どちらかという水着の方がお尻をついて座って遊ぶことができ、良いと感じたが、子どもたちには服装はあまり関係ないようにも感じた。
- ☆ スペースが広すぎて刺激が多かったため、仕切りを作るなど、もう少し環境設定を工夫する必要があった。
- ☆ 絵の具に触れる経験を重ねるにつれ、子どもたちが積極的に絵の具に触れる姿が見られ、とても良かった。
- ☆ 個々に好きな方法で絵の具に触れる姿があり、個々に探求する姿がとても印象的であった。
- ☆ 絵の具の感触を手でじっくりと味わう姿が見られたため、少人数で集中して取り組みことが出来る環境で行うことで、より探求を深められるのではないかと感じた。

★ 広いスペースで行い、のびのびと全身で絵の具に触れることが出来て良かった反面、他の様々な刺激があり、遊び込むことが出来なかったため、仕切りを作るなど、環境設定にもう少し工夫が必要であった。

★ 1回目より2回目の方が子どもたちがどんなことをやるのか、予想がつきやすく、楽しむことが出来ていたと感じた。

活動4 クリスマスツリーを作ろう

期待する経験

- ・ 季節を感じることが出来るように、クリスマスツリーを作ってみる。
- ・ 筆の扱い方を探求する。
- ・ 絵の具の感触を味わう。

準備した物

机、椅子、模造紙、黄緑の絵の具、お皿、筆、たんぽ、ビニール、スモック

- ・ 汚れることを気にせず取り組めるようにスモックを着用する。

子どもたちの様子

- ・ 筆を両手に1本ずつ持って色をつける姿が見られた。
- ・ 筆の先を握ってみたりつまんでみたりしながらよく観察し、手に色をつけた。そのまま見守っていると、顔にも絵の具をつける姿が見られ、そのまま鏡の前に行くと自分の顔を見て驚いた様子であった。
- ・ 右手で筆を上手に動かして左手を塗り、筆を置き、その左手を右手に擦り合わせて両手を緑色に染め上げていた。自分なりに考えながら両手に色がつくように工夫している姿が見られた。

振り返り

☆=自身の振り返り ★=クラスの振り返り

☆クリスマスツリーを作ってみようと考え、絵の具で大きな紙に色をつけたが、紙が大きく、テーブルの上だと子どもたちが届かない部分があった。テーブルを立てて、壁のようにして紙を貼り付けて行ってみたが、その方法も手が届かない子どもがいて苦戦し、保育者が抱っこをして色をつけることもあったため、紙の大きさを検討する必要があった。

☆子どもたちは思う存分紙に色をつけ、終わっても手で絵の具に触れ、楽しんでいる様子であった。じっくりと絵の具に触れることができ、探求することが出来てとても良かった。

☆利き手と反対の手に色をつける時に、筆を持ち替えて反対の手に色をつけるのではなく、利き手で反対の手にたっぷりと絵の具をつけ、筆を置いて両手を擦り合わせて反対の手にも色をつけている姿が子どもならではの方法だと感じ、自分なりに方法を考えている姿に感心した。

☆じっくりと探求を重ね、両手、顔にまで絵の具を塗っていて、鏡で自分の顔を見せると驚いていたが、じっくりと絵の具に触れることが出来ていてとても良かった。

★子どもたちの身長や手の長さを考慮した環境設定が必要であった。

★絵の具の感触を十分に味わっている様子でとても良かった。

実践

- ・ 大きなクリスマスツリーを描き、季節を感じることが出来るように保育室に飾る。
- ・ 子どもたちはそれぞれ筆を手の取り、紙に色をつけていく。



活動5 雪だるまを作ろう

期待する経験

- ・好きな色の絵の具を使い雪だるまを作って季節を感じる。
- ・筆の扱い方を探求する。
- ・絵の具に触れて感触を味わう。
- ・色の名前を知る

準備した物

机、椅子、身近な色の絵の具、お皿、筆、白い画用紙、ビニール、スモック

- ・身近にあって浸ししやすい色の絵の具を使用する。

子どもたちの様子

- ・以前は色を混ぜてしまっていたが、色を分けて使うことが出来ていた。
- ・筆を上手く動かし、丸を描く姿が見られた。
- ・以前は手で触れるのをあまり好まなかった子どもが、手で絵の具の感触を味わいながら色をつける姿が見られた。
- ・長い時間集中して取り組む姿が見られた。
- ・色の名前を覚えてきている子どもが増えた。
- ・自分で好きな色を選択することが出来るようになった。
- ・保育者が絵の具の準備をしていると自分から「絵の具やる」と言う姿や、友だちがやる姿を見て自分もやりたいと主張する姿が多く見られるようになった。

振り返り ☆=自身の振り返り ★=クラスの振り返り

☆数人ずつ行ったことで、集中して以前より大分長い時間個々に探求していることに感心した。

☆絵の具を使った活動を重ねてきたことで、筆の使い方を探求しながら丸を描くことが出来るようになってきている姿に感心した。

☆言葉の獲得とともに、色の名前も覚えてきている。

☆それぞれ自分の好みの色が出てきていることがわかった。

★筆の使い方を覚え、丸が書けることに驚いた。

★少人数で落ち着いて取り組むことができる環境でじっくりと絵の具の感触や、筆の使い方など個々に探求できている様子でとても良かった。

実践

- ・それぞれ好きな色の絵の具を選んで画用紙に筆や手を使って色をつけていく。
- ・集中して取り組みことが出来るよう少人数で行う。



活動6 春色に色をつけよう

期待する経験

- ・筆やたんぽを使用して自由に描いたり、スタンプしたり、手で絵の具に触れるなどして楽しむ。
- ・自分で好きな色を選択する。

準備した物

机、春をイメージした色の絵の具、お皿、筆、たんぽ、白いロール紙、ビニール、スモック

- ・春をイメージする色の絵の具を使用する。

子どもたちの様子

- ・保育者が絵の具の準備を始めると「絵の具やる」「○○も！（やる！）」と主張する姿が見られた。
- ・絵の具と筆、たんぽを並べておくと、自分たちで好きな道具を手に取り、保育者がどの色の絵の具にするか問うと、指を差したり色の名前を言葉にして主張する姿が見られた。
- ・たんぽを使ってスタンプするだけでなく、たんぽで太い線を描く姿も見られた。
- ・たんぽに含んだ絵の具を紙の上で絞り、その感触を楽しんでいる様子や、絞った絵の具を手で伸ばす姿も見られた。
- ・自分の好きな色にこだわり、その色だけで描いたり、スタンプをしたりする子どももいた。
- ・以前はあまり積極的ではなかった低月齢児が、自分から道具を手にし、積極的に絵の具に触れ、保育者が片付ける最後の最後まで取り組む姿が見られた。
- ・出来上がったロール紙を天井に飾ると自分たちが色をつけた物だと解り、指を指したり、声を出して教えてくれる姿が見られた。



振り返り ☆=自身の振り返り ★=クラスの振り返り

☆絵の具を使った活動を重ねてきたことで、「絵の具をやりたい！」という気持ちを持つようになったことを感じ、嬉しく思った。

☆自分たちで使う道具や、絵の具を選択できるようになった姿に感心した。

☆たんぽを使ってじっくりと絵の具に触れ、たんぽを絞ってみたり、絞った絵の具を手で伸ばしてみたりと個々に探求する姿が見られとても良かった。

☆高月齢児が楽しそうに取り組む姿を見て、低月齢児も刺激を受けるかたちとなり、低月齢児も絵の具に触れて遊ぶ楽しさを知ることができ、とても良かった。

☆個々に好みの色が出てきていて、色の名前も少しずつ覚えている。

☆個々に好む色が違って面白く感じた。

★子どもたちが興味を持ち、自分から「やりたい」と言って取り組む姿が見られるようになりとても良い。

★春らしい色を使ったことで、保育室に飾った時に季節感が出て良い。

1年を振り返って

10ヶ月間を通して自分の手や筆、たんぽを使用した絵の具の活動を行ってきて、特に後半にはじっくりと絵の具に触れることで、それぞれが絵の具とはどんなものかが解り、個々に好きな道具や好きな色の絵の具で遊びながら探求する姿が見られるようになった。

筆を使った絵の具遊びでは、筆で描いたり、筆を立ててトントンしたり、筆の先を絞ってみたり、両手に1本ずつ持って色を塗ったり、描いたりして楽しむ姿が見られた。また、後半には筆で丸を描く姿も見られるようになった。

たんぽを使った絵の具遊びでは、スタンプをしたり、たんぽで太い線を描いたり、たんぽを絞って絵の具が絞り出てくる感触を楽しむ姿が見られた。

自分の手を使った絵の具遊びでは、絵の具を握ったり、絵の具がついた手を紙に叩きつけたりしながらその感触を味わっていた。また、顔に塗ってみたりする姿まで見られた。

初めて絵の具というものに触れ、そこから絵の具に触れる経験を重ねてきたことで、個々に探求しながら絵の具遊びを楽しむ様子が見られるようになり、とても良かったと考えている。

また、視覚的に自分の好きな色というものが出てきていて、それはもちろん個々に違いがあり、面白いと感じている。